

## 小野地区タウンミーティング(要約)

テーマ：小野地区のまちづくりについて

平成30年1月17日（水曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は、平日の夜ということで何かとお忙しかったのではないかと思います。本日の小野地区タウンミーティングの開催にあたりましては、小野公民館館長をはじめ、地域の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。私は、市長就任後、1期目の公約にタウンミーティングを掲げていました。松山市内は、旧松山市・旧北条市・旧中島町を合わせて41地区に分かれます。どちらが楽かという、市役所に皆さんが来られるのを待っているほうが楽なのかもしれませんが、果たしてそれでいいのでしょうか。私たちの方から各地区へ出向いて行って、皆さんのお声を聞かせていただくとうタウンミーティングを始めました。このタウンミーティングは、できる限りこの場でお答えします。財政的によく考えなければいけないものや、国や県に関係する案件については、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんので、いったん持ち帰り、検討した結果を1カ月を目途に必ず返事をするという「聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしない」タウンミーティングをしています。また、できるところからすぐに市政に反映しますので、おかげさまで好評になりまして、1期目で41地区を2巡りさせていただきました。2期目に入らせていただきましたが、地区別タウンミーティングに加えて、世代別と職業別のタウンミーティングを行っています。世代別タウンミーティングでは、大学生や専門学校生、子育て世代の方、人生の先輩方にお集まりいただき、職業別タウンミーティングでは、農業分野の方々や商店街の方々とのタウンミーティングを重ねています。今日で106回目のタウンミーティングです。小野地区では3回目のタウンミーティングです。今日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

【司会】 それでは、小野地区での取り組みについて市長からご説明いたします。

【市長】 これまで2回のタウンミーティングでいただいた代表的なご意見と対応状況について説明させていただきます。まず、平成24年1月開催の小野地区での1回目のタウンミーティングで、「部活動の遠征費捻出のために、学校に自動販売機を設置してほしい」というご意見をいただきました。中学校の部活動の財源確保は、各校に共通した深刻な問題です。それまでは、公立中学校に自動販売機を設置する事例はありませんでしたが、タウンミーティングが行われた3カ月後に、小野中学校の体育館の横に、不審者情報などのメッセージを発信する電光掲示板を備えて、災害時には飲料水の無料提供ができる地域貢献型の自動販売機を設置させていただきました。売り上げ手数料をPTAの活動費用に還元させていただいています。今後も部活動の遠征費などにご活用いただければと思います。続いて、同じく1巡目のタウンミーティングで、「小野地区に

は、利用しやすい図書館がないので、子どもが図書館に親しめる環境をつくってほしい」というご意見をいただきました。新しい図書館の建設は、多額の事業費が必要になるため困難です。そこで、タウンミーティングの3カ月後の平成24年4月から、フジグラン重信の第2駐車場に移動図書館の巡回を開始しました。多くの方にご利用いただいています。2週間に1回、土曜日の午前10時から11時40分まで、移動図書館が来ています。昨年1年間で2,150人のご利用がありました。また、松山市、伊予市、東温市、砥部町、松前町、久万高原町の3市3町がお互いの強みや弱みを持ち寄りながらやっていこうということで、平成29年5月からは、3市3町の図書館のどこでも利用ができるようになりました。図書館は、本を貸し出すときに誰に貸したか、どこに行ったかわからなくなったのではいけませんので、利用するときに登録は必要ですが、ご利用いただければと思います。また、1巡目のタウンミーティングで、「中学校の部活動に、地域の人を指導者として活用できないか」というご意見をいただきました。外部指導者といいますが、平成20年度にこの制度を導入し、当初は36名の指導者数でしたが、現在は27校、77名の方に指導員をお願いしています。2倍以上に増やしています。小野中学校では、女子バレーボール部、女子ソフトボール部、軟式野球部の指導に外部の指導者3名が当たっています。また、運動部活動の指導者に研修会を開催し、指導力の向上に向けた取り組みを行っています。続いて、1巡目のタウンミーティングで、「不審者情報などを流すMACシステムの情報が遅い。タイムリーな情報発信をしてほしい」というご意見をいただきました。3カ月後の平成24年4月から、警察からの不審者情報等が入れば、すぐにMACシステムで送信するよう事務の改善を行いました。2巡目タウンミーティングでは、「学校の教室にエアコンをつけてほしい」というご意見をいただきました。小野地区だけではなく、他の地区からも、「授業に集中できる過ごしやすい環境をつくってほしい」とのご要望をいただきました。確かに35度ぐらいまで上がる日が増えてきました。子どもたちの教育環境を充実させることは大事だと思っていましたし、学校というのは大きな災害が起こったときに、小さいお子さんやおじいちゃん、おばあちゃんも避難してくる場所です。エアコンがついているご家庭も多いと思いますので、小・中学校の普通教室と使用頻度の高い特別教室にエアコンを整備することにしました。中学校は昨年9月から使用できるようになっています。小学校は来年度中の完成を目指していて、小野小学校は今年（平成30年）9月からエアコンが使用できるようになります。また、2巡目のタウンミーティングで、「自主防災組織の活性化モデル事業を充実し、地元の負担を減らしてほしい」というご意見をいただきました。そこで、平成27年度から、自主防災組織が展開する防災活動に対する補助金の見直しを行い、地元負担の軽減につながる内容に変更するとともに、市内全地区で活用できる補助事業を新設しました。小野地区でも、防災訓練の実施や防災資機材等の整備にこの補助金をご活用いただき、地域防災力の充実強化に役立てていただいています。さて、本日のタウンミーティングですが、皆さんとご相談させていただいて、「安全安

心なまちづくりについて」と「地域の活性化に向けて」をテーマにさせていただきました。まずはこのテーマで進めていきたいと思いますが、これに限らず、小野地区に関わるいろいろなお話を寄せていただければと思います。いつもタウンミーティングで申し上げていますが、まず、一つ目に「地域の皆さんができること」があります。二つ目に「行政がやるべきこと」があります。三つ目に「地域の皆さんと私たち行政が一緒になってできること」があります。本日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思います。よろしくをお願いします。

【男性】 小野地区自主防災組織連合会に所属しています。日頃から、小野地区は野志市長に大変お世話になり、感謝を申し上げます。小野地区自主防災組織連合会は、避難準備情報発令時や震度6以上の地震発生時に、各地区の被害状況を確認後、防災士は小野公民館に集合と取り決めして、現在活動中です。平成29年9月17日の台風18号では、避難準備情報発令後、10分から20分程度で集合場所の小野公民館に数名の防災士が到着しました。その後、避難場所の小学校の体育館へ移動してみると、松山市職員が1人で避難所対応をしていました。職員は専門知識に乏しく、要領を得ないので、連合会が至急、避難所開設準備を行い、避難者対応に当たりました。今回は、避難者が非常に少なく、大きな問題はありませんでしたが、大勢の避難者が駆けつけた場合、避難所開設に支障をきたす可能性が十分あります。避難所開設準備を円滑に進めるためにも、早めに情報を現場に下ろしていただけたらと思います。できれば避難所開設担当の職員と同じレベルで避難所に到着したいと考えます。危機管理課が避難準備情報を発令すると決定した段階で、例えば松山市内の自主防災組織連合会の会長宛てに「何時何分ごろに避難準備情報を出します」とあらかじめ緊急メールや一斉メール等をいただけたら、初動体制に遅れが生じることがないと思われまので、松山市全体としてご検討いただけたらと思います。また、自主避難と避難準備情報についてですが、自主避難体制は主事さんを中心に公民館が動きますけれども、避難準備情報となると危機管理課が動き、指揮命令系統が二つ存在することになり、台風18号のときに現場では「公民館を開けるの？小学校を開けるの？どっちなの？」ということで、非常に混乱しました。まずは、危機管理課と教育委員会で情報の一本化をしていただけて、現場へ情報を下ろしていただければ、現場が混乱することはないので、その方がいいのではないかと思います。それから、避難所開設担当者についてですが、あまり専門的な知識を持ち合わせていなかったというのが現状です。提案ですが、小野地区にも松山市職員がおられますけれども、普段から地域活動に参加している方もいらっしゃるので、できればそういう方に避難所開設の中心的な人物になっていただければ、現場も非常にスムーズに回るのではないのかなと思います。松山市職員で、なおかつその地域に在住で、地域住民とできるだけ顔見知りの方に避難所開設の担当に長年なっていただければ、非常に現場は助かると思います。それから、避難所が小学校の場合、避難者は避難所が開設になったら、

「どんなにして行けばいいんですか」と小学校へ電話します。ただ、9月17日は、小学校の先生方は17時にお帰りになられました。もちろん先生方に絶対にいてくださいというわけではありませんが、避難所開設になっているにもかかわらず、学校の電話には誰も出ないという状況が発生しました。例えば、転送電話などを使って、学校の電話回線を一つあけていただければ、地域の方が避難をするときに情報収集できるのではないのかと思います。最後に、徳島市の情報ですが、徳島市の学校には、緊急地震速報の自動一斉放送設備が設置されています。これはFM放送で、緊急地震速報をキャッチすると、自動的に校内放送で知らせる仕組みです。地震が到達する10秒ほど前に放送が流れるそうです。本格的なJアラートの受信機は、1基50万円もするものもありますが、FM電波を利用するので、装置が数万円程度で導入できるそうです。大地震が子どもたちを襲う前に、いち早く情報を知らせることができれば、命が救われるのではないのでしょうか。また、校舎の耐震化が終わっても、まだまだ学校は安全であるとは言いきれません。松山市で緊急地震速報機器の設置の検討はいかがでしょうか。また、今後の展望についてお知らせいただけたらと思います。

【市長】 昨年大雨がありましたので、大雨のときの対応についてご意見をいただきました。これについては消防からお願いします。

【消防局総務課長】 消防局総務課長の金澤と申します。まず一点目の「避難準備情報の伝達体制」については、ネットワーク会議で意見を集約させていただいていますので、その中で皆さんの安全と安心がより高まるような仕組みづくりについて、今後、検討させていただきたいと考えています。二点目の「市職員が本部と同レベルに避難所に向かう」というお話ですが、職員は災害警戒本部もしくは災害対策本部の本部要員となりますことから、いったん持ち帰らせていただいて、担当部局と調整をさせていただければと考えています。三点目の「避難所の電話回線」については、通常回線はあいているわけですが、それが転送などでどこかにつながるようということだと思いますので、これについても持ち帰らせていただいて、担当部局と検討させていただければと思います。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局の家串と申します。小・中学校に緊急地震速報の放送設備を設置してはどうかということですが、現状を申しますと、小野小学校・小野中学校を含むほとんどの小中学校では、震度5弱以上の地震が発生した場合に、職員室に設置している防災行政無線で受信をして、教職員が校内放送で全校生徒に伝えることになっています。ご提案がありました、自動的に校内放送が行われるという仕組みがあることは私どもも認識してしまして、今後は児童生徒の安心・安全のために、より早く確実に情報が届く環境設備が必要だと思っています。現在、検討しているところですので、ご理解いただけたらと思います。

【市長】 私は大雨のとき、市役所5階の災害対策本部にいましたので、その時の状況をご説明いたします。气象台などからいろいろなデータが入ってきます。そのデータをもとにして、避難準備情報と避難勧告と避難指示の三段階を出します。避難準備情報と

いうのは、高齢の方や体の弱い方は「早めに避難してくださいよ」というもので、次にレベルが上がると避難勧告といい、「避難をお勧めする」というものです。そして、一番強いのが避難指示といい、「避難を指示する」というものになります。当日はまさに私の横で、「避難準備情報を出しましょう」とか「避難勧告を出しましょう」というやり取りがありました。今、言っていた「自主防災組織の皆さんができるだけ早く駆けつけて避難所開設をしたい」というお話は非常にありがたいことなので、他の地区の方々も含め、例えばメールアドレスを登録させていただいて、「今から避難準備情報を出すよ」とかいうときに一斉に送れるようになると、非常に良いと思います。我々にとっても非常にありがたい、建設的なご意見だと思いますので、考えさせていただいたと思います。また、緊急地震速報は、学校放送で流す形にはなっていますが、各教室で流れることにはなっていません。各教室にそれを備えることができれば、より情報が伝わりやすいただろうと現在、検討していますので、考えさせていただきたいと思います。例えば、家具固定のことにしても備蓄のことにしても、やはり行政がいくら呼びかけても、皆さんが動いてくれないとどうしようもないので、皆さんから「こう動くよ」と言っていたのは非常にありがたいことで、皆さんとともに災害対応を進めていきたいなと思っています。ありがとうございました。

【男性】 松山市消防団員小野分団に所属しています。分団長が欠席のため、預かっている意見を代理で発表させていただきます。昨年の秋の台風で、小野地区の浸水被害はひどかったと思います。土を入れた土嚢（どのう）袋を数百袋も用意していましたが、あっという間に在庫が尽きてしまいました。また、豪雨の中、土嚢袋を準備するのは大変骨の折れる作業でした。備蓄は十分にしておかなければならないと痛感しました。自主防災とも協力し合い、備蓄用の土嚢袋を作れないかということと、土が入った土嚢袋を保管しておく場所を確保できないか考えています。今、平井公園に備蓄していますが、なかなか保管しておく場所がありません。そこで提案ですが、小野には高架道路が二つあり、その橋脚周辺に空いているスペースがありますが、高架下に土嚢袋を備蓄しておくことはできないものではないでしょうか。そのことを市役所から県道や国道の管理者に交渉してもらえると、貸してくれるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

【市長】 これも良いご提案だと思います。高架の下を利用して土嚢袋を備蓄するというやり方はあると思います。私たちの方から国や県に働きかけて、土嚢袋を置けないか聞いてみたいと思います。良いご提案をありがとうございました。

【男性】 皆さん、こんばんは。今年から娘が小学校のスポーツ少年団に入ってソフトボールを始めたのですが、そこで一点気になることがあります。小野小学校には駐車場が二つあり、一つが西門から入る駐車場で、もう一つが北門から入る駐車場なのですが、北門から入る駐車場の入り口が1メートルないぐらいの幅で30～40センチの勾配

になっています。小学校の部活では、外部指導者の方や他校の方が遠征に来られたりするのですが、今、そこで車の底をすったり、出るときに勢いがついてしまったり、すぐ外が道なので危険なんです。小学校は、子どもだけではなく、お年寄りの避難場所にもなりますが、通常、30～40パーセントの勾配は、車椅子なども通りにくいので、できることならば、バリアフリーのような感じに校門を改善していただいたら、皆さんが使いやすくなるのではないかとお願いです。

【市長】 ちょっと教えてください。小野小学校の地図は出ますか。(スクリーンに地図表示) 現状を聞かせていただきたいので、どなたでも結構です。駐車場が2カ所あるというお話でしたが、どちらが大きいですか。北グラウンドですか。

【男性】 北側の駐車場は、ここから入って、ここが全体になります。

【市長】 なるほど。グラウンドと直結している。

【男性】 そうですね。一応コーンを立てていますが、それでもこの駐車場よりは断然こちらの方が広いですね。

【市長】 なるほど。ここにも駐車場があって、こっちの方が広い。ありがとうございます。

【男性】 私も孫を児童クラブに預けていますので、その送り迎えの際にその上り口で車の底をすった経験があります。大きい車ならホイールベースも長いですからもっとするんじゃないかという気がしました。

【市長】 この角度がきついよということは小野地区の皆さんはよくご存知なんですか。何年ぐらい前から直してほしいと皆さんが思っている案件でしょうか。

【男性】 30年。

【市長】 30年もですか。

【男性】 ホイールベースの長い車は斜めに入っていきます。でも、バリアフリーということ考えると、門のレールを下げて、車椅子でも自分で漕いで入れるぐらいの勾配にするのがベストじゃないかと思います。ホイールベースの長い車は全部すります。

【市長】 避難をしてきた場合に、北門からだとか車椅子の方や高齢の方や足の不自由な方は上がりにくい感じなんですね。皆さんのお気持ち、分かります。私も別の小学校でしたが、スポーツ少年団で息子がお世話になりました。例えば、他の学校に試合に行くとすると、できるだけ1台の車に乗って、できるだけ荷物も載せていこうとしますから、当然、車は沈みます。そうなったら、底をするでしょうね。底をすると、なかなかそこを通りにくくなりますよね。かなり前から皆さんが思われていたというのは感じました。今日この場では即答はできないかと思います。エアコンのときにも申し上げたように、小学校が55校、中学校が29校あって、他の学校からもここを直してくださいというのは毎年拳がってきていますので、その中で優先順位をつける形になろうかと思いますが、できれば現場も見せていただいて、今皆さんからいただいたお話も含めて検討させていただいたらと思います。1カ月を目途に必ずお返事させていただいたらと思います。

【男性】 スポーツ少年団に関係することでお願ひがあります。教室の暑さ対策は、エアコンが付いて対応できたと思いますが、グラウンドや体育館は手付かずで、うちのスポーツ少年団でも熱中症の子が出始めました。去年、中学校が大型のサーキュレーターを窓側に置いて換気扇のように使ったら、結構良い効果が得られたという話を伺いました。エアコンほどはお金がかからないので、松山市の小中学校の体育館に大型のサーキュレーターを何台か配備したら、館内の温度を下げられるのではないかと思います。一度にできないということでしたら、試験的に小野小学校でよろしくお願ひします。あと、グラウンドでの熱中症対策ですけれども、木や建物の陰にミストシャワーを10メートルほど作ったらどうかと思います。ミストシャワーがあれば体感温度は下がりますので、熱中症対策にはもってこいだと思います。これも予算的に高くありません。これについても小野小学校はいつでも試験的に受けます。次は小野地区だけのことですが、街なかの学校でしたら学校をぐるりとフェンスが囲んでいますが、小野小学校は東側にフェンスがないんです。その方向にはなるべく蹴らない、打たない、投げないようにしてはいますが、小学生ですから蹴りそこない、打ちそこない、投げそこないが多いので道に飛び出したり、隣の家飛び込んだりしてしまいます。1回や2回なら家に飛び込んでも「元気ね」で済ましてくれますが、何度もとなると「また」と顔色が変わってしまうので、できたらフェンスを付けてもらえたらと思います。

【生涯学習政策課長】 体育館の扇風機、あるいはミスト付扇風機とかいろいろあるかと思いますが、小野地区では、PTAで購入されて既に設置をされているということをお聞ひしております。このように地域の方が、子どもたちのためにいろいろとご配慮をくださっているのを大変ありがたく思っています。ご指摘のとおり、特に梅雨明け前後や湿度が高いとき、急に温度が上昇したときに、熱中症事故のリスクが高まると認識しています。児童生徒の健康面や施設の環境に配慮していくことを我々も重要だと認識していますので、小野地区の例や他市などのいろいろな事案を参考にして検討させていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

【市長】 今、松山市役所は検討しますと言ったら本当に検討しますので、安心してください。あと、ミストシャワーとフェンスも同様ですかね。

【生涯学習政策課長】 ミストシャワーを設置している学校がありますので、これも同様に考えさせていただきたいと思います。フェンスについても、現場を見させていただいて検討させていただきます。

【男性】 こんばんは。小野中学校でPTA会長をさせていただいています。先ほど市長さんからもお話があったように中学校にはエアコンを設置していただきました。3年前の平成26年8月に小学生が「職員室にエアコンが付いているのに、なぜ教室には付かないんですか。付けてほしい」という提案をしたと思いますが、市長さんに「検討し

ます」という約束をしていただいて、3年後の昨年夏に設置いただきました。9月から使用させていただきまして、真夏でも学習環境が整い、熱中症対策にもつながったのではないかと思います。あの時の要望を聞き入れてくれなければ、学校の環境は整っていないのではないかと今でも思っています。保護者を代表しまして感謝の意を伝えたいと思います。ありがとうございました。また、いよいよ今年小学校にも設置予定と聞いていますが、休日子どもたちは学校に来て、スポーツ少年団や児童クラブ等で校内にすることが多いと思います。施工にあたっては、中学校より危険がたくさんあるのではないかと感じています。どのような工事をするのか、また、9月から開始とは聞きましたが、どのように進んでいくのか、整備スケジュールをお聞かせ願えたらと思います。

【市長】 今日、学習施設課が来ていたらよかったですね。私の認識で、間違っていたら教えてください。9月からの利用で、夏休み中の施工だったと記憶しています。工事するうえでは、子どもたちに危険が及ぶことがあってはいけませんから、細心の注意を払いながら進めます。おかげさまで、PFIという民間の力も活用する方式で、普段は切磋琢磨している地元の電気業者さんたちがグループを組んでくださって、地元のチームでエアコンを設置してくれることになりました。小学校55校、中学校29校の全84校のすべての教室ですので、かなりの台数になります。最初は3年かかるといわれていたんですけども、頑張ってくださいって2年で設置できることになりました。やはり2年がいいと思うんです。ある学校は初年度について、うちの学校は2年先でないといけないのやっというのはつらいですからね。ですので、何とか大人が頑張って2年で付けられるようになりました。もちろん子どもたちに危険がないように、またできるだけ早く付けたいと思っています。

【生涯学習政策課長】 今、市長が申したように授業に支障がないように工事を進める必要がありますので、土日で学校が休みのときの施工や長期休暇のときの工事を予定していて、8月末までの設置を考えています。

【市長】 2年目なので、初年度でのノウハウもできていると思いますから、気を付けながらやってくれると思います。

【男性】 いつもお世話になっております。資料を用意させていただきました。私は、小野中学校の部活動外部指導者として中学生の指導に携わっています。また、総合型地域スポーツクラブのONOSポーツクラブの一員として、地域の皆さんと一緒にスポーツ活動にも取り組んでいます。本日の要望は、中学校部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携についてです。これは、大変残念なことなのですが、ブラック部活という言葉がマスコミで取り上げられていて、学校部活動に関する諸問題、特に教員に対する負担は大きな社会問題となっています。今日の愛媛新聞の一面にも取り上げられていました。それらの現状も踏まえて、昨年末に文部科学省から緊急対策が発表されました。そこには、先生たちのために、子どもたちのために、外部人材を積極的に参画させる総合

型地域スポーツクラブとの連携を積極的に進めるとありました。私たちONOスポーツクラブでは、小野小中学生を中心にスポーツ教室を開催しており、中学校では外部指導者として複数の部活で現在、指導を行っています。スポーツ活動の運営実績も中学生への指導実績もある団体です。文科省の対策にもあったとおり、中学校部活動と総合型地域スポーツクラブが連携することによって、教師の勤務負担の軽減、生徒への適切な部活動指導、また、子どもたちのスポーツをする機会の確保につながったとお声を先生方や地域の方々からすでにいただいています。私たちは、学校と地域が連携して、よりよいスポーツ環境づくりに向けた協議を進めて、できることからはじめていますが、松山市としてのご意見をお聞かせいただけたらと思います。

【市長】 部活動は、運動部だけでなく、文化部もあると思います。冒頭で申し上げたように外部指導者をできるだけ松山市では導入するようにしています。例えば、文化部でいいますと吹奏楽が強い学校がありますよね。もし、小学校や中学校の先生方が吹奏楽の経験がない、そういう先生方が、若いんだから部活の面倒を見なさいということになって、文化部でも運動部でもその先生が若いというだけで任されて、嫌で嫌でしょうがないという先生に教えられたら、子どもも不幸ですし、先生も不幸です。例えば、サッカーでいいますと、南宇和高校が全国で一番になったことがありますけれども、あれは小さいときからサッカーをずっとやって育てて、すそ野がしっかりしているから強いというところがあります。松山市には、私と教育長と教育委員さんといって企業の経営者の代表としてお一人と、日本でも指折り強い愛媛大学のダンスの権威でいらっしゃる牛山眞貴子先生、またPTAの代表の方ですとか、そういう教育委員の方を交えた総合教育会議というものがあります。この間の総合教育会議で、部活の指導についてもっといい方法がないのかということ、私から提言しています。ですので、松山市としてはできるだけ部活動の指導の負担を軽減して、できるだけ地域の皆さんと連携をしながらお力添えをいただきながら教員の負担軽減にもつなげていきたいし、スポーツも強くしていきたいし、子どもたちにもできればいい指導を受けさせてあげたいと思っていますので、今、まさにこういう形で進めていこうとしているところです。小野中学校さんも、どういう指導の仕方がいいのかということ、これからは皆さんと話し合いながら進めていきたいと思っていますので、それが松山市の大方針ということになります。同じ思いだと思います。よろしくお願いします。

【男性】 平井町商店街振興組合では40年以上にわたり土曜夜市を開催してきました。しかしながら、組合員の高齢化、売上不振等で解散することとなりました。それに伴い街路灯の撤去、土曜夜市、女の祭りの中止が決定されました。平成28年夏のことです。振り返ってみると平井の夜市は、商店街と地域の協力者の方々によって、小野地区の子どもさんたちに低価格で友達同士でも安心して遊びに来られる、田舎の手作りの夜市でした。40年以上やっていますので、昔、夜市で遊んでいた方が、今ではお孫さんを連

れてまた来てくださる、毎年当たり前のように開催されてきたものです。しかし、実は当たり前のものではなく、貴重なイベントだと考えています。また、街路灯がなくなれば、地域の防犯や交通安全にも不安が残ります。夜市だけではなく、女の祭りもできなくなります。1年でも開催できないと歩行者天国の許可が下りなくなってしまう。このような状況の中、このままでは町が寂れてしまうので、なんとかしようと地域の有志の方々が立ち上がってくれました。夜市を継続するために、地域の皆さん、学校、PTA、スポーツ少年団、介護施設、女の祭り、ソフトボールチーム、銀行ほか、さまざまな方の協力を得て、平井商店街小野地区土曜夜市実行委員会を結成しました。夜市には人手がいます。これだけの多くの方に集まっていたことに小野という地域の力を感じました。商店街の夜市から地域の夜市へと新しい道筋が見えました。平成28年12月には渡部市議さんのご協力で、仲間とともに市長さんに支援要請をさせていただきました。市長さんや市役所の皆さんに親身になって対応していただき、いろいろな制度を組み合わせさせていただき、書類作成が夏までに間に合うようアドバイスをいただき、大変ご迷惑をおかけしましたが、大変助かりました。感謝をしています。市の支援のおかげで、街路灯は残り、LED化されました。夜市にも補助金をいただき、無事、開催することができました。市、商店街、地域が一緒になってイベントを成功させたという新しいことに参加させていただき、いい経験となりました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございます。最後に、去年の経験から改善願えればと思うことがあります。イベントに際し、事前の準備金に苦勞をしました。補助金のうち一部でもイベント前に出していただければ、主催者側は助かります。改善の余地があれば、ぜひご検討いただければ助かります。支援していただいているのに、さらにお願いになり申しわけありません。今後ともよろしく申し上げます。

【市長】 ありがとうございます。このことについて分かりやすく言うと、後払いになっているのを前金払いにできないですかという話です。恐らくできると思います。平井商店街さんが活用されているのは「商い賑わい支援事業補助金」というものですが、概算払いが規定されていません。前金払いができるようにするためには、松山市商業振興対策事業委員会での議決が必要になるんですけれども、議題として早速取り扱いたいと思っています。皆さんからそういうお声があることを聞いていましたので、先日、松山市商店街連盟の会長さんに伺ったところ、「おそらく他の商店街からも補助金を前金払いにしてほしいという意見が出る可能性があるので、検討していく必要がある」とおっしゃっていましたので、議題として取り上げて、前向きにできればと思っています。皆さんは、小野に住んでいるから当たり前に思われるかもしれませんが、本当に小野の夜市は素晴らしいと思います。私も地元の渡部克彦議員さんから、街灯の件を聞きました。なんとか工夫をしてやっていける方法がないか考えて、いい形になってよかったと思っています。毎年、この夜市に来させてもらっていますけれども、本当に手作りのイベントで一生懸命皆さんが暑い中、汗を流しながら頑張っているのを見て、そこに地元の

子どもたちが寄って、本当にいい思い出ができています。これだけ皆さんが動いてくださっているんですから、私も市としてできるだけ支援をしたいと思いました。素晴らしい取り組みだと思しますので、続けていただければと思っています。

【女性】 こんばんは。私の子どもは小野小学校の2年生と4年生で、私たち保護者の中で最近、一番話題になっているのは、子ども医療費のことです。私たちの世代はまだまだ収入が少ない中で、病気になったらどうしようという不安を抱えながら子育てをしているんですけれども、周辺の東温市や伊予市などでは、中学生まで通院費が無料なのに、県内では松山だけ無料になっていないことを新聞で見ました。自分の子どもが病気になって病院に連れて行った時のことですが、同じぐらいの子どもを持った保護者が会計で何も支払わずに帰って行かれて、自分たちは普通に会計をすることがありました。子どもの医療費も、月に換算して病気が重なったら安いものではないです。すごく不公平感がありました。このことについて、子どもの医療費の無料化を市長さんはどのようにお考えなのかをお伺いしたいと思いましたので、よろしくをお願いします。

【市長】 皆さんの関心の高いところだと思います。私も子どもが二人いまして、小さいときは病気になりやすく、そういう時期を経てきましたので、お気持ちはとてもよくわかります。現状を皆さんに分かりやすくお話したいと思います。医療は、大きく分けて通院と入院があります。松山市では、平成26年度までは小学校に入る前までの子どもの通院は無料、入院は小学校3年生まで無料だったんです。中には、本当はお子さんを入院させた方がいいのだけれども、入院させてしまうと家計が苦しいご家庭もあります。でも、そんなことで入院させられないのは大変不幸なことです。愛媛県にお願いをしまして、愛媛県から補助をいただいてやっている部分を拡大してもらって、平成27年度から入院については中学校3年生まで松山市も無料になりました。ですから、義務教育の期間中は、入院については無料になったというわけです。残っているのが通院なんです。松山市の周りの市町ではできて、なぜ松山市でできていないのかというと、これは松山市が中核市になったことが関係します。52万人の大きな都市ですから、愛媛県さんから松山市への補助率と周辺の市町への補助率が違うんですよ。松山市は人口が多くてお金があるでしょうから、この補助は低くていいですよと松山市の補助は抑えられているんです。そういったことから、松山市は愛媛県さんに対して、もう少し補助率を上げてもらえないですかね、もう少し助けてもらえないですかね、とお願いをしているところです。その部分を平成27年度に、愛媛県から膨らませてもらったので、入院については無料にすることができました。私もできればやりたいですけれども、中学校3年生まで通院も無料にすると、年間に7億円余計にいきます。10年やると70億円かかりますので、ここの予算の捻出をどうしようかと考えているところです。松山市では、ひとり親の家庭の負担軽減ということで、母子家庭の入院・通院費が無料だったのを、父子家庭にも広げることができました。今、徐々にできるところから広げてい

るところですが、皆さんは、通院も入院も無料というのを希望されていると思いますので、それを目指して、まずは財源を確保していきたいなと思っています。一度始めると、なかなか止めることができませんので、なんとか予算を捻出しながらやっていきたいなと思っています。タウンミーティングは今日が106回目だと申し上げましたが、私も人間なので、皆さんから言われて「わかりました。それやりましょう」と言えた方が私も楽なんです。でも、我々の世代でお金を使い果たしてしまって、子どもや孫の世代に何も残っていなかったではいけません。皆さんのご家庭と一緒に、財布は決まっています。今、国から国庫支出金や地方交付税交付金ということで地方にお金がまわってくるんですけども、国は1千兆円を超える借金を抱えています。そうすると、仕送りと同様と似たところがありますから、国から地方にまわってくるお金はこれから増えるとはとても考えにくいです。これから、少子高齢化なので、私もそうなりますけれども高齢化してお世話になる人、医療や福祉でお金がいる人は増えていく一方で、働いてお金を稼いでくれる人の数は減っていきます。ますます財布は小さくなっていくだろうなと思っています。その中で、やりくりしながらやっていかなければいけません。昭和50年ぐらいの景気よかった時代に、公共施設をいっぱいつくって、それを直しながら次の世代につないでいかなければならないので、そのお金のことも考えておかなければいけません。我々世代で使い果たしてしまってはいけないという思いで、今は何をすべきかを考えながらやっています。私も、できれば中学校3年生まで、通院も入院も無料にしたいですけども、なかなかそうならないところのお許しをいただけたらと思います。できるだけやっていきたいなと思っています。

【男性】 青少年育成支援委員小野地区代表と少年警察ボランティアの小野支部長をしています。私どもは、月3回程度、青パトにて夜間巡回をしています。活動の中で気が付いたことと関連して、小野谷公園と野田神社裏公園（北梅本公園）について質問があります。小野谷公園、野田神社裏公園は、地元の小野谷、駄場で振り分けて、草刈り、除草作業等を行っています。そして、野田神社裏公園も同様の管理作業を受託しているとのことで、私が野田神社の総代をしていたころにも、野田神社の総代全員で、公園掃除、草刈り等の受託をしたこともありますが、小野谷公園は、県道があり、その横に小野川が通っています。そして、小野川を挟んでその向こう側に公園があります。今では、高く草が茂り、道路からは公園が全く見えません。野田神社裏公園に関しても、道路より7～8メートルも上がっているため下から見えないということで、防犯上不安だらけの公園で、子どもたちを安心して遊ばせられないということで非常に利用者が少ないです。小野谷公園は、まず外からも見えませんが、子どもの姿を見たことがありません。その手前の川では、よく子どもたちが遊んでいるところは見えます。そういうことでこの二つの公園、特にこの小野谷公園ですが、行き着く先も見えず管理作業をいつまでもし続けなければならないのか、また、公園を見ていただき、別の用途の方向へと検討をい

ただきたく質問しますので、よろしくをお願いします。

【市長】 小野谷公園は、確か1回目のタウンミーティングでも質問いただいたと思いますがお願いします。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の石井です。小野谷公園は、特に視界が悪いということで、愛媛県さんには何度も話に行っていますが、愛媛県さんの回答は、なかなか難しいので、「愛リバー・サポーター制度」というのを地元で活用してはどうかということで、以前にご紹介させていただきました。地域の皆さんから、この登録の要望がないと伺っていますので、再度細かな点について、お聞かせをいただいたらと思っています。それと、北梅本公園は、薄暗く感じ、借地ということで大幅な地形の形状変更は、難しいと考えていますけれども、遊具の塗装や樹木の下枝の撤去などを行い、少しでもいい環境にして子どもたちや地域の人たちが来られるようにしていきたいと考えていますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【市長】 以前、1回目のタウンミーティングで、小野谷公園の視界をよくしていただけないかというご意見があって、愛媛県がやっている「愛リバー・サポーター制度」のご紹介をしたようですが、実らなかったということですが、制度を活用できるようでしたら、自分たちで木とか切れるんですけどかね。

【男性】 昔はそういうことでもあったんですが、今は、この公園の管理作業をいつまでしなければいけないのということを、地元の方が口々に、作業するたびに言われています。利用もしない公園をどうするのか、どうあるべきなのか。そういう制度を利用しても、公園が存続されるわけなので、いずれは地元負担がかかります。高齢化で小野谷の住民も、私が総代をしていたころは、60軒ぐらいあったのが、今は35軒ぐらいに半減しています。駄場はもっと戸数が少ないです。今答えが出るわけではないでしょうが、そういう状況で、いつまで公園管理の作業をしないとイケないのかということで質問をさせていただきました。前々回にも話題に上がったんですが、私はそういうことを聞いていなかったもので。

【市長】 子どもたちは公園で遊んでいるのですか。あまり遊んでいないのですか。

【男性】 小野谷公園では、まず見かけないです。

【市長】 全然ですか。

【男性】 子どもがおりませんので。

【市長】 なるほど。これから、こういうケースは出てくるかもしれないです。寂しいですけども、高齢化してあまり子どもがいない。かつては遊んでいたけれども、公園ではもうほとんど遊んでいない。じゃあ、いつまでお世話をするんだろうというのは、これから多く出てくる話かもしれません。

【都市・交通計画課長】 公園に関する同様な意見が、他の地区でも出てくるようになっています。松山市の場合は、公園管理協力会という地元の方に、日ごろの維持管理をしていただいています。各公園で事情が違うので、松山市で具体的な取り決めというの

は、今のところないですが、そういう要望が寄せられていますので、まずは、地元の公園管理協力会とご相談いただいて、実情に合った内容で、今後のことを考えていきたいと思っています。

【市長】 新たな視点を教えていただきました。どちらかというと公園はあったほうがいいたろうなという認識でいたのですが、これからこういう話が出てくるだろうなと思いました。現実合うことをやっていかないといけないと思いますし、新たな視点を教えていただきました。ありがとうございます。また、考えさせていただきます。

【男性】 松山市小野市道160号線、食場からずっと高井のほうまで道ができて、また地元の要望で11号線の手前で接続していただきまして、非常に便利がよくなりました。当然、交通量も増えました。明屋書店の近くに初陣という焼鳥屋さんがあって、その横に道路のようなスペースはあるんですけども、聞いたところによると、国交省とかの規制の問題で、伊予鉄の踏切が広げられないということで、せっかく両面使えるスペースがあるのに使えません。市ではできない話かもわかりませんが、焼鳥屋の前は非常に事故が多いし、せっかくきれいな道をつくっていただいたので、側道についても整備をできないものかと思います。もし当分できないのであれば、一時停止できていないうえ、久米に向かう市道のほうもスピードを出す人が多く、非常に危ないので、点滅信号を付けてもらえないでしょうか。それから、南に下がったところの高架から下がっていくところですけども、ここも一時停止ができていないので、しょっちゅう白バイやパトカーの餌食になっているようで、非常に気の毒です。色んな交通規制なども含めて、安全な道路の使い方ができないものかお伺いします。

【市長】 焼鳥屋さんの近くの道は、抜け道になっているんですかね。結構、交通量が多いな、事故が多いかもしれないな、というのは感じたことがあります。

【都市・交通計画課長】 踏切の改良は、国の指導がありまして、例えば踏切を広げる場合は、別の踏切を閉めないといけないとか、手続きが難航することが非常に多いので、すぐには踏切の改良は難しいと考えています。松山市内には踏切が何百カ所もあり、もっと危ないところもありますので、優先順位をつけさせていただくようになると思います。それと、交通規制や信号については警察のほうですが、一時停止をするような色の使い方とか、やり方はあると思いますので、現場を見させていただいて警察などと協議をさせていただいたらと思います。

【市長】 あの辺りは市の道路ですかね。できるだけ事故が起こらないように、交差点をカラー舗装や十字を付けて目立たせるとか色んなやり方はありますので、できるだけ現状をみながら対応していきたいと思います。

【男性】 難しいことはわかっていますが、踏切自体がないところもあるでしょうし、国が、緑地帯が減ったら、どこかに緑地帯をつくれというような話と同じことだと思いますが、どの踏切を閉めてということはあると思いますけれど、総合的に考えて、せつ

かくあそこまでつくったものを鉄道と国の関係だけで、使えないというのは、松山市としても損失だと思いますので、考えていただければと思います。

【男性】 先ほど質問のあった焼鳥屋の近くの道路ですが、市道小野4号線、比較的古い道路なんです。あそこは通学路になっていて、その割には通行量が多く、スピードを出しています。以前、教育委員会の方が通学路の危険箇所の点検に来られたので、「この道路は都市計画に入っていて、将来は歩道でも付けてくれるんですか」と聞いたら、「都市計画に入っていません」ということでした。将来的には歩道を付けるような計画を立てていただければ、長い目でありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

【都市・交通計画課長】 第一弾として、小野4号線は通学路でグリーンベルトを引かせていただいていると思います。整備となると長期の時間や優先順位などがあります。現在、小野地区では生活道路を5路線工事していて、来年度以降の予定箇所が7路線あって、地元から要望を出していただいた中でも優先順位とかを、地元と協議させていただいたらと思っています。

【市長】 通学路だとゾーン30とあって、30キロ以下に抑えるというのがあります。できるだけ分かりやすくいいますが、信号とか何キロ以下で走りましょうというのは、市では勝手にできない話になります。人を規制するのは警察の話になるんです。ですから市役所と警察が話をしながら進めていくということになりますけれども、場所によっては子どもたちが通るところだからゾーン30にして30キロ以下にしましょうという場所も市内にはありますが、そのような協議はどうなっていますか。

【都市・交通計画課長】 基本的にはゾーン30のエリア設定というのは警察になりますので、地元の総意があれば、警察のほうに私どもが間に入って伝えることもできます。まずは内容の説明をさせていただきますので、ご検討いただいてから、警察に言ってみてもいいかなと思います。

【男性】 30キロ以下にはなっているんですよ。

【市長】 30キロ以下になっているんですか。ゾーン30になると、より守ってもらえるということになるんですかね。

【都市・交通計画課長】 そうですね。もし地元が了解していただいたら、車がスピードを落とすためのハンプや段差を付けるなど、そういうものを地元と一緒に話していけば、警察にもゾーン30の了解も得られやすいので、ぜひ検討いただければと思います。

【市長】 やはり地元の皆さんの協力が大事になります。スピードを落とすためにガタガタをつくる方法もありますが、音が出て困る方がいるとなかなか進みにくかったりするので、地元のご協力が大事になるかなと思っています。

【男性】 それよりも、その前の道がずっと広くはなったが、いきなり平井商店街の狭いところへ入ってきます。速いスピードでどンドン行って、完全に11号と旧11号のバイパスになっています。朝7時、生徒が通学するときに見てください。昔の交通量の

10倍ぐらいになっているんです。それを考えていただいて、道路整備をしていただかなければ、途中までは広がったって、そこから向こうが狭ければ、みんなが突っ込んできます。

【市長】 梅本駅のほうから商店街に入るとだいぶ道が広くなりましたよね。そのスピードで来ちゃうから危ないということですね。

【男性】 そうです。みんなそのまま向こうのほうへ行っちゃうんです。当然あっちのほうは広がっていないので、事故が増えるのは当たり前なんです。

【市長】 平井商店街の道は市道ですか。

【都市・交通計画課長】 県道です。

【市長】 では、県と連携した動きになりますね。

【男性】 あの辺りを広げたらどうなって、次の狭いところにつながるということ、行政は何も考えていないというのが、率直な意見です。

【男性】 中学校の校長をさせていただいています。先ほどから中学校の自動販売機、外部指導者、それとエアコン、本当にありがとうございます。お願いではないですが、現状ということで、地域の活性化にもなっていると思うのでお伝えします。ふるさと松山創造プランというものを教育委員会からいただいています、教育長からも頑張る学校は応援するよという力強いお言葉をいただいています。小野中学校では、その大切なお金を使わせていただいて、農業をしています。土は小野の方に耕していただき、農作物をつくっていて、アドバイスをいただいたり、できた野菜などを小野の朝市やJA小野さんのご協力を得て販売させていただいたりしています。そのようなことを通じて子どもたちは小野で生活することの意義もかなり感じていると思いますし、将来、地域に役立つ人になっていくのかなと思っています。つきましては、このように学校の裁量でお金が使えるのは非常にありがたいことですので、もしかしたら色んな形に変わっていくかもしれませんが、また今後とも継続をよろしくお願いします。

【市長】 藤田教育長からも頑張る学校は支援していきたいという話を聞いていますので、その方向でおそらく進んでいくと思います。

【男性】 タウンミーティングのあり方として、今後、もし発表しなければそのまま何もなかったということなのかどうかを教えていただきたいと思います。私は、タウンミーティングの申込書の中に、線路の問題を書きました。通学路で、伊予銀行から下がっていったところの踏切のところ、交通量が多く、生徒さんがよく通るわりには非常に狭いところ。先ほど優先順位の話がありましたけれども、どれぐらいの優先順位が今並んでいて、ここは次ですか、何番目ですみたいなことがあって、取り組んでいただきたいと思います。

【市民部長】 タウンミーティングを所管しています市民部長の唐崎と申します。タウ

ンミーティングを開催する場合に、皆さんに事前にどういったご要望がありますかとか、どういったことを聞きたいですかということをお伺いしていますが、どういった担当の職員をこちらに派遣するかとか、どういった傾向だろうかとお伺いするために聞いています。当日ご質問があったもののお答えについては、市長が申しましたように1カ月を目途にお返しをしますが、この場で発言がなかったものについては、今は返すような制度にはしていません。ただ、発言できなかったもので、この会が終わったあとにこれが聞きたいとかありましたら、我々が残っていますので尋ねていただきましたら、それに対するお答えはさせていただきます。

【市長】 ガラス張りのタウンミーティングということで、松山市のホームページで会議録を公開しています。それを全部読むと皆さん大変だと思いますので、意見対応表といいまして、こういう意見が出ました、こういう答えをさせてもらいましたというのを、1巡目も2巡目も全部ホームページに掲載しています。全地区のことを出していますので、ご覧いただけたらと思います。また、松山市役所では市長へのわがまちメールという制度があって、皆さんから市長に直接メールが届く制度があります。市役所のトップページから入れますので、どうぞ遠慮なく市長へのわがまちメールを利用していただけたらと思います。

【男性】 先ほどの小学校の北門に関して補足ですが、勾配を検討される際に、ぜひ駐車スペースの確保も考えていただければと思います。出入り口に鉄の門扉がありますが、防犯安全上、車で来た場合にも降りて開けて、そして閉めて入ると、出るときも同じことですが、前面道路が4メートルしかないの、そこへ停めるとどうしても交通障害が起きてしまいます。検討されるのであれば、併せて1台車が停められるぐらいのスペースがあれば安全にできるのではないかなと思います。

【市長】 わかりました。ありがとうございます。8時28分になりましたので、私から締めのお話をさせていただきます。冒頭に一項目ずつとお願いして、多くの方が発言できるような協力をいただきまして、ありがとうございます。本当は言いたかったのに言えなかった方もいらっしゃると思いますので、先ほど申しあげた市長へのわがまちメールをご活用いただけたらと思います。今日、お話を伺って、やはり子どもの医療費をやりたいですね。実は、今、松山市の小児救急はぎりぎりの状態で先生たちが保ってくれています。全国でも珍しいです。小児科の先生たちが少なくなっている中で、365日24時間の小児救急医療体制を堅持しています。私は平成22年に市長にならせていただいて、中村前市長からこれを引き継ぎました。なんとか絶やしてはいけないということで、365日24時間の小児救急医療体制を堅持していますけれども、先生方も医療の現場でただでさえ忙しく、先生方もだいぶ高齢化してきているので、保つことが難しいという話になっています。でも、愛媛大学さん、愛大病院さん、日赤さんや、勤務医や開業医の小児科医の先生方にも協力してもらって堅持しています。東温市の人たちも

来たり、砥部町の人も来たりするので、東温市や砥部町や松前町の人たちにも一緒になって、何とか松山エリアの小児救急医療体制をもたせようとしています。限られた財源ではありますが、できる限り子どもたちや市民の皆さんが笑顔になる取り組みをしていきたいなと思っています。今、どこの自治体も困っていて、あるところでは中学3年生まで医療費無料とか、あるところは小学6年生までとか、違いがあるんです。それぞれの市町の財政状況もあることですが、それっておかしいですよ。日本国民として生まれて、どの市に産まれたら何歳まで受けられるとか、どの町に産まれたら何歳まで受けられるとか、市や町で違うのはおかしいですよ。ある市だけ特別困っているわけではなくて、これは国全体の話で、国が責任を持ってやるべき話じゃないんですかと、全国市長会の一員として国に対して申し上げているところです。国がやるべきこと、県がやるべきこと、市がやるべきこと、それぞれあります。でも、だから何もやりませんというのは、大変無責任だと思いますので、市の立場としてできる限りやっていきたいと思っていますので、ご理解をいただけたらと思います。本日は皆さんから現場の声を聞かせていただいて、北門の話もよくわかりましたし、公園の話もよくわかりました。新たに考えなければいけない角度だと気づきました。これからも皆さんと連携してまちづくりをやっていきたいと思っています。行政と地域が反目しあったら、何もいいことはないです。我々がやるべきことをしっかりやっていきたいと思っていますけれども、地域の皆さんともしっかりと連携をしていけば、色んな取り組みができると思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。今日は長時間ありがとうございました。

— 了 —